

## 副理事長ご挨拶

西良 浩一  
(総務委員会 担当)

この度、日本整形外科スポーツ医学会の副理事長に任命されました徳島大学の西良浩一です。整形外科領域で唯一、スポーツ医学に特化した本学会において副理事長となり会の運営に携わらせていただくことは、スポーツドクターとしては最高の栄誉であるとの至福の喜びでございます。この度、副理事長として、若きスポーツドクターへのメッセージを送りたいと思います。それは、[VSOP] です。V: vitality, S: specialty, O: originality, P: personality の意味を持ちます。

医師になり、整形外科を志した 20 歳代は vitality の時代です。スポーツ医学に特化せず、variety 領域の整形外科を習得して下さい。そして、専門医取得後、30 歳代には specialty の時代です。ぜひ、スポーツ医学を選択して下さいと思います。30 歳代前半には、脊椎スポーツ、関節スポーツにこだわらず variety of

sports medicine に興味を持っていただきたい。そして、後半にはスポーツ専門領域にすすみ、40 歳代の originality の時代を迎えます。

Originality を迎えた頃、教科書を「読む人間」から「書く人間」に変わる必要があります。教科書を読んで他人のテクニックをそのまま行うことは、30 歳代で卒業し、40 歳以後は、自分のオリジナルな手法を考え、教科書を執筆する、つまり歴史を変える人物に成長しましょう。そして実りある 50 歳代の personality の時代を迎えるわけです。

私は、現在 52 歳です。Personality の 50 歳代です。松本理事長、筒井副理事長と歩調を合わせ、personality で、JOSSM を国内外唯一のスポーツ医学会に更なる発展に繋げて行きたい、そう決意しております。

**筒井 廣明**  
(財務委員会 担当)

この度、一般社団法人日本整形外科スポーツ医学会の副理事長（財務担当）を拝命いたしました。大変光栄に存じますとともに、責任の重大さを痛感いたしております。理事として本法人及びスポーツ整形外科の発展に寄与すること、また、副理事長として松本秀男理事長の負担を軽減し、麻生邦一先生、帖佐悦男先生と引き継がれてきた財務の健全化を引き継ぎ、本会が十分にその活動を行うための財源の確保を理事会のみならず会員の先生方のご協力のもと、行っていきたいと考えております。

担当させていただいている財務委員会の委員には2010年から担当されている大谷俊郎先生に引き続きお願いし、今まで財務委員会担当理事であった帖佐悦男先生には委員として入っていただくこととさせていただきます。

本法人の収入に関しましては、会員を増やすことが学会の活性化とともに最も大切な財源確保の方法ですが、ほかにも広告あるいは寄付による企業からの収入などが主な財源になります。会員の先生方の会費納入状況は約20%の先生が未納という状況ですので、納入方法についても検討中ではありますが、会員の皆様のご協力をお願いする次第です。

また支出に関しましては、学会発展のために必要な事柄に関しましては、可能な限りサポートできるようにしたいと考えておりますので、理事及び委員会委員の先生方には無駄な支出がなきようにご協力をお願いする次第です。

本学会とは30年を超える係わりを持たせていただいておりますが、代議員にさせていただいてからは、2007年に将来構想委員会の立ち上げに関与させていただき、その後、2008年から理事として、2011年に学会活性化検討委員会担当理事と総務委員会委員として、本学会の運営にかかわらせていただきました。その間、2012年には整形外科領域におけるスポーツ医学の進歩・発展のためには、学際的領域から成り立つ総合医学とし

ての体系とフィールドワークが主体の実践医学としての体系の両方を確立することが学会としては大切との考えを基盤として、第38回の本学術集會を開催させていただきました。多くの整形外科医のみならず理学療法士やアスレチックトレーナーの方々の参加をいただきました。

この度の理事会では松本秀男理事長が、日本整形外科学会、特にスポーツ委員会との関係を強化し、本学会の立ち位置を決め、関連学会との関係を構築することで本学会のIdentityを確立し、国際関連学会(AOSSM、KOSSM、GOTS)との関係をより強化する国際化と、スポーツドクターの教育システムを作る教育面の充実を基本方針として提示されました。

大学を卒業後、「スポーツ」というキーワードで整形外科を希望される医師が増加し、医療現場ではスポーツ選手の治療を行っている整形外科医も増えてきていますが、スポーツの現場との連携やスポーツ医学の進歩に対応することが難しいとの意見も多く聞かれます。このような状況の中で本学会は、整形外科が部位別に専門性を持ってきていることもあり、「整形外科」と「スポーツ」という横断的なキーワードを学ぶ場としての学術集會や研修会の充実、あるいは既に各地で行われている研究会などとの連携を進めることも本学会の大切な役割の一つであろうと考えています。さらに、スポーツ医の認定を受け、知識を習得しても治療の場に活用できていない現状もあり、各種競技団体との連携や競技スポーツだけでなく、健康スポーツや学校教育現場で活躍するためにもメディカルスタッフや選手と十分にお互いの意見を討論できる場をつくることで「現場に強い整形外科スポーツ医」を育て、活躍できる環境を作ることも本学会に求められていると考えております。

副理事長の役職は身に余る大役ではありますが、理事及び西良浩一副理事長とともに、理事長を補佐し本法人の運営に積極的に携わっていく所存ですので、どうぞ会員の皆様のご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。